

SSKU

CIL ひの通信

No.70

編集:特定非営利活動法人 自立生活センター日野

〒191-0031 東京都日野市高幡 2-9 ウィステリアガーデン 1F

e-mail cilhino@view.ocn.ne.jp

TEL:042-594-7401

発行所:障害者団体定期刊行物協会(定価百円)

FAX:042-594-7402

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドウーラ祖師谷 102号室

TEL:03-6277-9611

ひのしょうがいしゃさべつかいしょうすいしんじょうれいかいせいきねんこうえんかいほうこく 日野市障害者差別解消推進条例改正記念講演会報告

しょうがい じんけん しゃかい 「障害の人権モデルと社会モデル」



2025年11月8日(土)に日野市障害者差別解消推進条例改正記念講演会を、自立生活センター日野と日野市障害福祉課との共催で開催しました。この講演会は、市民や行政が進むべき方向を探る大切な機会として企画。DPI日本会議の崔榮繁さんを講師にお迎えし、「障害の人権モデルと社会モデル～インクルーシブ社会を目指して～」をテーマに、みんなで理解を深めることを目指しました。

崔さんとは以前から親交がありますが、今回もそのユーモアを交えた語り口に、会場全体が引き込まれました。DPI日本会議が目指す「障害がある人もない

人も、地域で平等に育ち、学び、暮らし、働ける社会」という考え方が、今回の講演の重要なテーマの一つであることを、冒頭から感じさせてくれましたし、「皆さんに『来てよかったな』と思ってもらえるように話します」と言ってくれた言葉通り、講演はとても充実した内容でした。

崔さんは、講演の中で日野市の条例について「私が知る条例の中では、かなり進んでいると思います」と評価してくださいました。私自身も条例作りに最初から関わってきたので、とてもうれしく感じましたし、特に、私たちがこだわって盛り込んだ、家族に対する差別の禁止や間接・関連差別、そして今回の改正で

加えたインクルーシブ社会の定義にも触れて、その先進性を高く評価してくれたのです。また、ユネスコのレポートからは「世界中の全ての人が持っているものはなんだ？」と会場に問いかけ、その答えを「ちがひ」だと示しました。「何が普通で、何が特別かは、社会が都合よく決めているだけ」という言葉は、わたたちが無意識に作ってきた「特別」な存在への見方を変えるきっかけとなりました。

そして、今回の講演の中心的なテーマとして深く掘り下げられたのが、「障害の人権モデルと社会モデル」の理解でした。崔さんはまず、「障害」を「機能の障害」と「社会生活での不便（社会的バリア）」に分けて考える「社会モデル」を説明してくれました。

「機能の障害 = 社会生活での不便ではない」

例えば、目が見えないこと自体は機能の障害ですが、その人が社会に参加できないのは、点字の表示が少ないなど「社会の環境にバリアがある」ためであり、それが「社会生活での不便」を生んでいます。次に、「新しい人権モデル」についてですが、これまで、障害のない人には当然保障されてきた権利（逮捕されない権利、公正な裁判を受ける権利、住む場所を自由に選ぶ権利など）が、障害者に対しては「障害があるから」という理由で制限されてきた現実を指摘しました。例えば、聴覚障害がある人が取り調べを受ける際に手話通訳がつかない、知的障害がある人に代弁する支援者がつかないなど、多くの場面で障害者の人権が十分に守られてこなかったのです。このような状況を変えるために作られたのが、国連の障害者権利条約であり、これ委員会は提唱する「新しい人権モデル」であり、これまでの考え方を大きく変えるものです。

「障害を理由とした権利の制限は、原則として許されない」

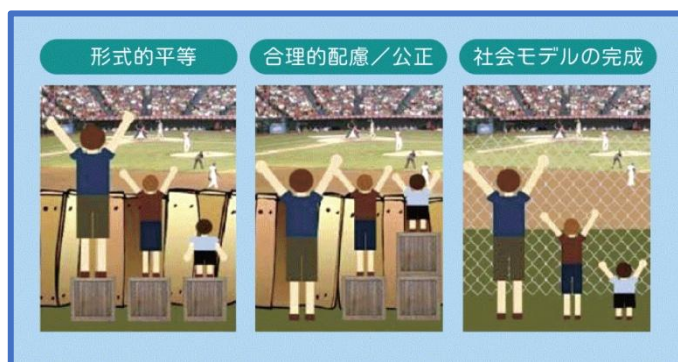
これは、強制入院や分離教育、成年後見制度など、これまで「仕方ない」とされてきたことについて、「障害があることを理由に、区別したり、排除したり、制限することは人権侵害である」と明確に言うものです。

この人権モデルの実現に不可欠な要素である

「合理的配慮」についても、その本当の意味が解説され、それは「特別扱い」ではなく、誰もが平等に参加できるようにするための「調整」だということです。野球観戦のイラストを使って、全員に同じ箱を与える「形式的な平等」と、背の高さに合わせて箱の数を变えることで全員が野球を見られるようにする「実質的な平等」を比べ、最終的には、高い塀を金網に変える「環境整備」によって、個別の配慮がいない社会を目指すことだと説明してくれました。DPIが長年取り組んできた運動によって駅にエレベーターが設置された例や、韓国でのバスの裁判例も紹介され、「環境が変われば、障害はなくなる」という社会モデルの力を具体的に示し、私たちも行動することの大切さを改めて感じました。

崔さんが最後に掲げた「インクルーシブ社会はみんなのための社会!」というメッセージ。この言葉は、障害のあるなしに関わらず、すべての市民が日々の暮らしの中で自分らしく生きることができるよう目指す上で、常に心に留めておきたい大切なことです。今回の講演で得た学びを、市民、事業者、そして行政が共有し、それぞれができることから具体的な行動へとつなげていく。その一歩一歩が、日野市の「インクルーシブ社会」を築いていくのだと、改めて感じました。日野市障害者差別解消推進条例が、単なる条文で終わることなく、真に市民一人ひとりの生活に寄り添い、差別のない社会を実現するための大切な指針となるよう、今回の講演会の学びを活かして、私自身も市民の一人として行動していきたいと思っています。

（記：藤田）



令和7年度「障害者週間イベント」開催報告

「ともに生きるまち日野」へ



令和7年12月7日(日)、イオンモール多摩平の森3階イオンホールにて、「障害者週間イベント いっしょに ～知る・ふれる・理解を深める～」が盛大に開催されました。障害のあるなしに関わらず、地域に暮らす誰もが「ともに生きるまち日野」を目指すこのイベントは、たくさんの人々が交流し、理解を深める一日となりました。当日は、午前10時の開場から午後3時30分の閉場まで、3階イオンホールは活気に満ちあふれていました。

午前の舞台は、例年以上に多くの観覧者で賑わい、熱気に包まれました。開幕を飾ったのは、あおい鳥の利用者の皆さんによる元気いっぱいの歌のパフォーマンスです。続いて、視覚障害の皆さんで構成された「ひかりバンド」の素敵な演奏に合わせて、トゥインクルセブン(六小児童の皆さん)によるダンスが披露されました。子どもたちが一生懸命に踊る姿には、多くの観客から大きな拍手が送られました。その後、四中の生徒さんからは「夢ふうせん」での職場体験の成果を発表し、明星大の学生さんからは特例子会社でのインターンシップの経験を報告しました。若い世代が地域や社会と関わる中で得た学びや気づきを深めている様子を感じることができました。

午後は、会場全体が様々な体験コーナーとスポーツ

コーナーで賑わいました。「体験コーナー」では、点字体験、リングメモ作り、マッサージ、手話体験、筆談ボード作り、紙すき、わーくリーン作りといった子どもから大人まで楽しめる企画が並びました。特に小学生以下の子どもたちがいる家族連れが多く訪れ、どのコーナーでも目を輝かせながら参加する姿が印象的でした。一方、「スポーツコーナー」では、ブラインドサッカーやボッチャといったパラスポーツ体験が大人気。普段なかなか触れる機会のないスポーツを通じて、障害への理解を深めました。



中でも、自立生活センター日野・あおぞらさんが担当した「車いす体験コーナー」は大盛況でした。今年は会場のイオンホールをスタート地点とし、3階フロアを周回するコースを設定。これにより、他のコーナーからの参加者もスムーズに立ち寄ることができ、昨年を大きく上回る60名以上の方々に体験していただくことができました。準備した車いすは終日フル稼働し、たくさんの参加者が広いフロアを周回。元気な男の子たちはややダイナミックに、女の子たちは穏やかな様子で、それぞれに車いす操作の難しさや楽しさを体感。「腕が疲れた!」といった率直な感想も聞かれました。この車いす体験は、フロアを周回することで一般

お客さんの目に触れる機会も多く、車いすをより身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

その他、子どもたちに大人気のヒーローとの写真撮影や缶バッジ作り、景品抽選会なども実施され、会場は終始、笑顔が溢れていました。このイベントを通じて、障害のある人もない人もお互いに「知る」、「ふれ

る」、「理解を深める」ことができる貴重な機会になったと思います。これからも「ともに生きるまち日野」の実現に向けて、このような交流の場を大切にしていきたいと思います。

（記：藤田）

日障連「共に生きるまちづくり『障害者の自立と人権』」イベント報告



日野市障害者関係団体連絡協議会（日障連）は、設立50周年を記念するとともに、毎年恒例の「障害者の自立と人権」イベントとして、「共生社会をめざして～施設づくりと障害者運動を通して～」を開催しました。

登壇された光の家就労ホームの関口仁朗さんは、「地域と共に一光の家の活動と歩み」と題し、視覚に障害がある方を地域と共に支える大切さを語ってくださいました。夏祭りやバザーで地域に感謝を伝える活動に加え、地域が自発的に理解を深めていく具体例として、視覚障害の方からの申し入れがないにもかかわらず店長が点字メニューを作成したモスバーガーのエピソードが紹介されました。施設は地域の一部であり、障害のある方と地域、専門家をつなぐ大切な役割があることをお話されました。

次に、日野市障害者問題を考える会の東ますみさんが登壇。「重度心身障害児と歩んで」というテーマ

で、ご自身の息子さんの大変な子育て経験を話してくれました。「なぜ障害があると最初に言ってくれなかったのか」「なぜ経管栄養を勧めなかったのか」彼女の心の声は、私たち参加者一人ひとりの胸に重く響きました。療育センターや訪問学級、地域の人との出会いが支えとなり、支援が広がったことも話され、医療的ケアを必要とする重度障害者のグループホーム設立の困難さや、家族の切実な願いについても訴えられました。

今回のイベントは、障害のある方とその家族が日々直面する現実と、地域全体で支え合う共生社会のあり方を深く考える貴重な機会となりました。国際的な条約や日野市の条例が目指すのは、誰も排除しないインクルーシブな社会です。しかし、東さんが語られた、特別支援学校での豊かな出会いや学びが、ご本人の成長に欠かせないものだったという事実は、インクルーシブ教育の理想と、現実における支援のあり方、そして本人にとっての価値との間で、条例策定や改正に携わってきた私自身の心に、複雑な迷いと深い問いを残しました。当事者の率直な声を受け止め、その想いを尊重しながら、真に目指すべき未来の目標をどう定めていくか。その中で、私たち一人ひとりが果たすべき役割を改めて考える一日となりました。

（記：藤田）

れい わ ねん ど

しゅうちゅうこうざ かいさいほうこく

令和7年度「ピア・カウンセリング集中講座」開催報告

この度、自立生活センター日野とヒューマンケア協会、ILみなみTamaの共催による「ピア・カウンセリング集中講座」が、無事に終了しました。リーダーとしてスタートする前は、参加して下さる皆さんが、どのようにならっていくのだろうか、どんな時間を一緒に作っていただけるかとワクワクした気持ちでいっぱいでした。

今回、私は初回と最終回を担当させていただきました。参加者の皆さんは一人ひとり個性豊かで、とても魅力的な方々でした。積極的に発言し、場の雰囲気を作るべく下さる方、じっくりと自分の気持ちに向き合い、深く考えて言葉を選ぶ方、また過去の経験を活かし周囲をサポートして下さる方もいれば、少し控えめながらも真剣に自分と向き合おうと努力される方もいました。私たちリーダーも、「どうすれば皆さんがより安心して参加できるか」を常に考えながら、工夫をして進めていきました。それぞれのリーダーが参加者の皆さんに寄り添いながら、ピア・カウンセリング

の時間を進めていく中で、次第に皆さんの表情や言葉から充実感が伝わってきて、とても嬉しく感じました。

セッションを重ねるごとに、皆さんの表情は生き生きと輝き、「もっと話したい!」「時間が足りない!」といった声も多く聞かれるようになりました。熱心に自分の気持ちを語り、相手の話に耳を傾ける姿は、ピア・カウンセリングの効果や可能性を改めて実感させてくれました。この講座を通して私が最も感じたのは、初対面の他者同士が場を共有し、互いの存在を認め合い、支え合えるようになる、参加者一人ひとりの力強さです。残念ながらすべての回に参加できなかった方もいらっしゃいましたが、皆さんがこの場所で得た気づきや、育んだ大切な繋がりを、これからの生活の中で大切に活かされることを心から願っています。そして、いつかまた、皆さんと笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

(記: 藤田)

ひのしりつふくししえん
「日野市立福祉支援センターたまだいら」が開所

令和7年9月23日(火)、日野市に新しく「日野市立福祉支援センターたまだいら」が開所し、式典と建物の内覧会が行われました。新しい建物は、今まで中央福祉センターにあった社会福祉協議会やボランティアセンターが移転したもので、福祉や地域の支え合いをさらに強める重要な拠点となります。



一階にはホールやボランティアセンターのスペースがあります。木のぬくもりを感じられる温かい雰囲気になっていて、訪れる人々が落ち着いて過ごせる雰囲気です。ホールの中央には木の柱があり、デザインのアクセントとなっていますが、使い勝手はどうか気になるところです。また、車いす利用者のためのトイレや赤ちゃん連れにはうれしい授乳室も完備されていて、誰もが安心して利用できる工夫が感じられます。

二階には、社会福祉協議会の事務所と相談室があります。白を基調としたすっきりとしたデザインで、清潔感もあります。しかし、私自身が大きな電動車いすを使って訪れたため、エレベーターのサイズや相談室の出入り口の幅に少し戸惑う点もありました。エレベーターへのアプローチ部分ですが、壁の厚みや

奥まったデザインが出入りを難しくしています。標準規格のドアやエレベーターのサイズがもう少し広くなれば、多くの人にとって使いやすくなるという感想です。新しい建物は、木の温かみや清潔感があふれていて、とても良い印象を受けました。ただ、「ユニバーサルデザイン」の視点から見ると、もう少し工夫すればもっと使いやすくなるなど感じた内覧会でした。

開所式から少し経った10月10日（金）、福祉支援センターたまだいらを再び訪問しました。今回は荷物も増え、ボランティアセンターや社会福祉協議会の事務所もなんだか生活感がプラスされたように感じました。ただ、以前の中央福祉センターに比べて駐車場の数が少ないのが心配になります。車いすの駐車場

は一台分確保されていますが、イベントなどで多くの人が訪れるようになると、駐車場が足りなくなることも考えられますので、これから、どのように使われていくのか気になるところです。

新しい福祉支援センターたまだいらは、木の温もりあふれる素敵な建物です。開所式で感じた「もう少しこうなればもっと良い」という点も、これから利用する方々の声を聞きながら、少しずつ改善されていくことを期待しています。「みんなの居場所」として福祉や地域の絆を深める大切な拠点として、育まれることを願っています。

（記：藤田）

令和7年日野市総合防災訓練に参加して

令和7年10月25日（土）、あいにくの雨模様でしたが、豊田1号公園予定地と豊田南地区センターで行われた、日野市総合防災訓練に参加してきました。地震や火災などの災害を想定したさまざまな体験や訓練が行われ、多くの関係者や市民の方が防災意識を高める貴重な機会となりました。訓練では、初期消火体験や煙体験といった「体験して学ぶ」訓練から、地震で倒れた人を助ける「救出・救助訓練」、そして災害時に水が手に入る「応急給水訓練」など、本当にたくさんの種類の訓練が準備されていました。残念ながら、雨のため展示ブースをゆっくり見て回ることができませんでしたが、各機関の皆さんが防災に関する大切な情報を発信していました。

今回の訓練で特に注目したのは、豊田小地域自主防災会の皆さんが行った「避難所運営訓練」です。ここでは、実際に避難所が開設されたと想定して、私のような「要配慮者」（災害時に特別な配慮が必要な方）も避難体験をしました。車いすで避難所に入ると、まずは受付へ案内され、そこで要配慮者として、名前や必要な配慮など、いくつかの項目を記入する用紙を

渡されました。ただ、その時に使った鉛筆が細くて書きにくかったり、記入項目が多かったり…。手や指がうまく動かせない私にはもう少し書きやすい太さの鉛筆やボールペンを用意してもらえると助かります。また、記入項目については、必要な配慮を「自由記述」で書いたのですが、「選択式」にしてくれたり、「この避難所ではこんな配慮ができますよ」という項目をあらかじめ示してくれたりすると、もっとスムーズに記入できるだろうな、と感じました。



避難所の中で、要配慮者のプライベートを守るための「仕切りテント」を設置する体験もしました。これは、

避難生活で大切な個人の空間を確保するためのもの
 なのですが、車いすに座ったままだと胸から上がテント
 の外に出てしまい、隣のひとと「こんにちは」になってしま
 う高さです。もちろん、仕切りがあるだけでもありがた
 いのですが、実はこのタイプのテントは数年前から同じ
 ものが紹介されていて、そのたびに「車いすで使う
 場合、もうちょっと高さのあるものがないですね!」と伝
 えてきたはずですが…。使う人のニーズに合わせて、も
 っと高さのあるものや、プライバシーをしっかりと守れる
 ような新しいものも準備してもらえると、もっと快適に
 過ごせると思います。

体験型の訓練では、「初期消火訓練」で消火器の
 使い方を学びました。消防士さんから「消火器は火元
 にしっかり当てないと消えないこと、そして火が天井ま
 で上がっていたらもう消火器では消せないから、とに
 かく逃げるのが大切だ」ということを教えてもらいま
 した。また、「煙体験ハウス」では、本当に驚くような
 体験をしました。テントの中は、たった50cm先すら見
 えないほどの真っ白な煙で充満していて、もしこれが
 火災現場だったら、逃げる方向も分からなくなり、どれ
 だけ怖い。たった1〜2メートル進むだけでも、身の

危険を感じるほどのリアルな体験でした。煙の恐ろし
 さを身をもって知ることができました。自衛隊と自治会
 の皆さんによる「炊き出し訓練」では、温かくて美味し
 いカレーをいただきました。「もし食事もとれない日が
 続いた時に、こんな美味しいカレーを食べられたら、ど
 んなにホッとするだろう」と感じた半面、どんなにおい
 しいものが食べられたとしても災害に遭うことなく、普段
 通りに食事ができている日々がどれほど幸せか、改
 めて感じるすることができました。

今回の総合防災訓練は、私たち一人ひとりが「もし
 も」の時にどう行動するかを考える、とても大切な
 機会でした。車いすユーザーである私の視点から、
 避難所の設備や運営について感じた「もっとこうなれ
 ば」という点も、日野市がこれから「誰もが安心して
 避難できる避難所」を目指していく上で、きっと役に立
 つはず。この訓練での気づきを活かし、日野市が
 さらに防災に強いまちになることを願っています。そし
 て、普段から防災について意識し、災害に備えることの
 大切さを、改めて皆さんと共有したいと思います。

（記：藤田）

交流会でホットケーキを作りました



2025年11月15日(土)に交流会を行いました。参
 加者は利用者、介助者、職員含め12名の参加でした。
 今回はホットプレートとたこ焼き器を使用し、ホットケ
 キの粉でホットケーキやベビーカステラ、クレープを作

りました。

ホットケーキとクレープは大き過ぎるとお腹が一杯
 になってしまうので、小さめに作ろうと皆で話をしながら
 お玉で生地を流しましたが、小さいサイズで作ること
 が難しく、何回か作るうちに作り方も慣れてきて小ぶ
 りのサイズで作ることができました。

自分たちで飾りつけが出来るように、フルーツや生
 クリーム、カラスプレー、チョコクリーム、チョコペン、ク
 レープ用にハム、チーズ、レタスなどたくさん用意し、次
 はこれ!こっちは美味しかったよ!と、皆でワイワイ盛り
 上がりながらたくさん食べました。ベビーカステラは、
 竹串でひっくり返すことが難しく、焦げないように気を



つけながら^{つく}作りました。どれも美味^{おい}しく、皆^{みな}で作^{つく}ることがとても楽^{たの}しい時間^{じかん}でした。

いまかいざんねん^{さん} さんか
今回残念ながら参加できなかつた方も次回の参加をお待ちしております。
また楽^{たの}しい企画^{きかく}を計画^{けいかく}しますので、よろしくお願^{ねが}いいたします。

(記:秋田^{き あきた})

わたしたちのあゆみ

8/4(月) 東京^{げつ どうきょうと}都ピアサポートファシリテーター養成^{ようせいけいんしゅう}研修

8/5(火) 日野市^{か ひの しゅーてー} U D まちづくり推進協議会

8/7(木) 日野市^{もく ひの しちいきこうきょうこうつうかいぎ}地域公共交通会議

精神^{せいしん}サポートグループ

ピアサポート指導者養成^{しどうしゃようせいけいんしゅうけんどういいんかい}研修検討委員会

8/8(金) 第2回^{きん だい}東京^{かいとうきょうと}都相談^{そうだん}支援^{しえん}従事者^{じしやけんしゅうけんどうかい}研修検討会

8/12(火) 幹福社^{か みきふくし}会理事^{かいりじちよう}長^{のぐちとしひこ} 野口俊彦^{こくべつしき}さん告別式

8/14(木) 日野本町^{もく ひのほんまち}地区^{くこうきょうしせつさいへん}公共施設^{きんこうそう}再編^{きほんけいかく}基本構想^{けんこう}・基本計画^{きほんけいかく}検討^{けんこう}委員会^{いいんかい}

8/15(金) 厚労科^{きん こうろうか}研^{けん}ピアサポ^{ぜんたいかい}全体会

8/21(木) TIL^{もく ていうんえいかいぎ}運営会議

8/23(土) 精神^{ど せいしん}サポートグループ

8/25(月) 日野市^{げつ ひの しきょうてん}拠点事業^{きょくせんどうかいぎ}検討会議

8/28(木) サポ^{もく ひの}ート日野^{げんたいけんしゅう}全体研修

9/4(木)~10/2(木) ピア^{もく しゅうちゅうこうざ}カン集 中講座

毎週^{まいしゅう}木曜^{もくよう}全5回^{ぜんごかい}

9/8(月) 日野市^{げつ ひの しぼうさい}防災シンポジウム

9/9(火) I L P^{か あいえるびー}リーダー養成講座^{ようせいこうざ}

9/10(水) 日野市^{すい ひの ししょうがいしや}障害者週間^{さつかいしゅう}実行委員会^{いんかい}

9/17(水) 院内^{すい いんないしゅうかい}集会

9/18(木) 相談^{もく そうだん}支援^{しえん}事業所^{じぎょうしよれんらくかい}連絡会

9/19(金) ピア^{きん}サポート基礎^き研修^{けんしゅう}

TIL^{ていうんえいかいぎ}運営会議

9/22(火) 日野市^{か ひの しりつふくし}立福祉センター^{かいいしよしき}はまだいら開所式

9/28(日) ピア^{にち すいしんじぎょうぜんたいかい}サポート推進事業^{すいしんじぎょうぜんたいかい}全体会

9/29(月) 当事者^{げつ どうじしやべんきょうかい}勉強会

ピアサポート指導者養成^{しどうしゃようせいけいんしゅうけんどういいんかい}研修検討委員会

9/30(火) ピア^かサポート基礎^き研修^{けんしゅう}

10/2(木) JIL^{もく じるじょうにいいんかい}常任委員会

10/6(月)、7(火) ピア^{げつ か}サポート指導者養成^{しどうしゃようせいけいんしゅう}研修

10/6(月) 日野本町^{げつ ひのほんまちけんどうかいぎ}検討会議

10/9(木) 日野市^{もく ひの しころ}心のバリアフリー^{けんしゅう}研修

10/9(木) 日障連^{もく にっしょうれん}都市議会議員懇談会^{としきかいぎいんこんだんかい}

10/10(金) まちづくり^{きん}人プロジェクト^{びと}

10/17(金) 日野市^{きん ひの ししょうがいふくし}障害福祉課意見交換会^{かい けんこうかんかい}

10/19(日) 東京馬主^{にち どうきょうまぬしきやうかい}協会^{もくろくぞうていしき}目録贈呈式

10/20(月) TIL^{げつ ていうんえいかいぎ}運営会議

10/22(水) 幹理^{すい みきり}事所^{じししょうかいぎ}長会^{けんしゅう}議

10/24(金) 東京都^{きん どうきょうと}ピアサポート^{けんしゅう}研修カリキュラム^{けんどういいんかい}検討委員会

10/25(土) 日野市^{ど ひの し}総合防災訓練^{そうごうぼうさいくんれん}

10/26(日) 日障連^{にち にっしょうれん}運営委員会^{うんえい いんかい}

10/28(火) I L P^{か あいえるびー}リーダー^{ようせいこうざ}養成講座

11/4(火) JIL^{か じるじょうにいいんかい}常任委員会

ピアサポート^{こうろうか}厚労科^{けんぜんたいかい}研全体会

11/8(土) 日野市^{ど ひの ししょうがいしや}障害者^{さつかいしゅう}差別^{すいしんじ}解消^{じょうれい}推進^き条例改正^{ねんこうえんかい}記念講演会

11/10(月) 日野本町^{げつ ひのほんまちけんどうかいぎ}検討会議

11/11(火) 相談^{か そうだん}支援^{しえん}事業所^{じぎょうしよれんらくかい}連絡会

11/15(土) 知的^{ど ち}交流会^{てきこうりゅうかい}

11/20(木) TIL^{もく ていうんえいかいぎ}運営会議

11/27(木) I L P^{もく あいえるびー}リーダー^{ようせいこうざ}養成講座

11/29(土) D P I^{ど ていびー}障害者^{あししょうがいしや}政策^{せいさく}討論会^{どうろんかい}